



神話の源流

はじまりの物語

出逢いと旅立ち

日向・都農の旅

神話の源流へ。
宮崎県

神話の源流へ。～みやざき神話ストーリー～

神武東征

天上界・高天原(たかあまのはら)から日向(ひむか)の地に降り立った天孫ニニギノミコトから数えて4代目、カムヤマトイハレビコノミコト(のちの神武天皇)は、兄弟たちに相談し平安に政治を行う場所を求めて、日向から東の大和(やまと)に向けて出発することを決意します。

現在の宮崎市の皇宮屋(こぐや)を出発した一行は、道中に「矢研(やとぎ)の滝」で鎌(やじり)を研ぎ、海上での無事平穏を祈るなど準備を整え、ついに舟出の地・美々津(みみつ)にたどり着きます。

準備を整えながら出発の日を伺っていたところ、風向きや潮の流れが変わったことから予定を早め、旧暦8月1日の暁の頃に出発することにしました。土地の人びとの助けを借りて大慌てで準備し、無事舟出することができたカムヤマトイハレビコは、数々の冒険の後に大和(奈良県橿原市)で即位し、初代天皇となって国を治めたのです。

神武東征の伝説が今も残る日向市(ひゅうがし)と都農町(つのちよう)。

舟出の地、日向市美々津を訪れると、神武天皇の物語が今も人びとの暮らしの中に息づいていることに気づきます。

東征の途中で訪れた地、都農町では、国を治めるという強い思いを持って進んだ神武天皇の歩みに力をもらえることでしょう。

強い決意のもと、東に向けて旅立った神武天皇に思いを馳せる旅をはじめましょう。

神々の系図



東征の物語が息づく日向・都農へ

1 日向市 出会いと別れの地で新たな自分をはじめる旅…P.2

神武天皇お舟出の伝承が残る日向市。古いまち並みと街の人びとの温かさ、そして雄大な自然にふれ、新しい自分への決意をする旅へ。

2 都農町 心願成就に向けた第一歩を踏み出す旅…P.10

神武天皇の歩みにまつわる伝承が息づく都農町。豊かな自然とその恵みを受けて、心願成就に向けた一歩を踏み出す旅へ。

[神話エッセイ]

暮らしに息づく神話を訪ねて

皆さんが初めて『古事記』や『日本書紀』を読んだのはいつですか？

書名や有名な神様の名前は知っているけれどそのものを読んだことはない、という方もいらっしゃるかも知れません。実は私も、文学部の学生になって初めてきちんと読みました。そして驚きました。宮崎県内で生まれ育ち、幼い頃から聞き知っていた話とは、違うところが多かったからです。それに、『古事記』と『日本書紀』とでは内容がずいぶん異なるということも分かりました。

いうまでもなく神話は史実ではありませんし、書かれたことがすべてでもありません。記紀のどちらかが「正しい」か、という問いも不毛です。ただ、記紀の記述とは関わりなく、宮崎県人にとって神様や神話はとても身近で、日々の暮らしの中に息づいているように思います。今回の旅で、その思いは確信に変わりました。

今回お邪魔した都農町と日向市とは、ともに私が生まれ育った延岡市から近いのですが、だからこそ訪れる機会を逸していた場所もありました。

1日目は、まず日向一之宮である都農神社へ。平安時代の『延喜式』にも載る古社で、神武天皇が東征する際に武運を祈ったといわれています。永友宮司から、都農町のある児湯郡が古代日向の中心部であったこと、16世紀に兵火によって社殿や多くの神宝・文書類が焼失したこと、古い神面や勇壮な祭を大切に守り伝えてきたこと等を伺いました。その後、尾鈴山に登り、神武東征の際にこの滝の水で矢を研いだという伝説のある矢研の滝を見学。幕末の賢人・秋月種樹の言葉という「神壯(かみさかんなり)」の石碑が屹立するさまは、清浄な空間を

より際立たせていました。いずれも歴代の高鍋藩主らによって再興・保護された場所であり、神話や伝説が脈々と息づく土地柄を感じました。

2日目は、耳川の河口の津(港)である美々津へ。美々津軒の佐藤館長のご案内で、神武天皇が腰掛けたと伝わる岩を祀った立磐神社をはじめ、ゆかりの地を巡りました。佐藤館長の幼い頃の体験談や語り部としての活動内容についてお話を伺い、こうした情熱と知性とを併せ持つ方が地元を守っている限り宮崎県は安泰だ、と感じ入りました。

そして、大御神社を訪ね、新名宮司のご案内で奇岩であるさざれ石や龍玉を拝見し、龍神伝説を伺いつつ、外海に面した独特の景観にしばらく見とれてしまいました。偶然にも、幼い頃かわいがっていただいた地質学者の足立先生や、近年に共同研究等でご一緒した先生方のお名前が次々にあがり、不思議なご縁も感じました。

他にも立ち寄った先々で、素敵の方々や美しい風景、おいしい物にたくさん出会いました。すべて、古代からこの地に人々が暮らし連綿と育んできた物だと思います。私が今、記紀が編纂された奈良県の、神武天皇ゆかりの橿原市に住み、明日香村で古代文化に関わる仕事をさせていただいているのも何か意味があることなのかもしれない、いや、そうありがたい、と願いながら帰途につきました。

奈良県立万葉文化館指導研究員 井上さやか



©keiichi_suto

【執筆者紹介】

井上さやか

博士(文学)。延岡市出身。母親は高千穂町天岩戸生まれ。著書に『山部赤人と叙景』『万葉集からみる「世界」』(ともに新典社)、監修に『マンガで楽しむ古典 万葉集』(ナツメ社)などがある。研究だけでなく各地で講演やイベントを行うなど、活動の場を広げている。

遙かなる大和への
旅立ちに、思いを馳せる。
出会いと別れの地で新たな決意を。

神武天皇お舟出の地と伝わる 「^{み み つ}美々津」

「神武天皇のお舟出の地に選ばれたことは美々津の誇り」と語る町の人びと。美々津に着いた神武天皇は、天候の良い日を伺いながら準備を進めていましたが、風向きや潮の流れが変わり、急遽予定を早めて旧暦8月1日の暁の頃の出発となりました。

出発が早まったことを聞いた美々津の人びとは、精一杯のはなむけとして急ごしらえのだんごを献上します。また、このとき互いに各家の戸を叩いて「起きよ、起きよ」と起こし合って集まり、早朝に神武天皇一行を見送ったと伝わります。

旅立ちの際、神武天皇が通ったとされる美々津の沖の「お舟出の瀬戸」は、神武天皇が日向に二度と戻らなかったことから、地元の人が出港する時には決して通らないといえます。

美々津の町を歩き人びとの温かさに触れると、神武天皇がこの港町から旅立とうとした気持ちが何となく分かる気がします。



🍷 美々津立縫地区

懐かしい出発の中で、神武天皇を立てたまま衣服のほころびを縫ったことが名前の由来と伝わります。国の重要な建造物群保存地区に選定された情緒あふれるまち並みは、港町として栄えた江戸から大正時代にタイムスリップしたかのようです。

お問合せ: 美々津まちなみセンター TEL: 0982-58-0661



🍷 おきよまつり

旧暦の8月1日に行われます。明け方に子ども達が短冊飾りのついた笹を手に家々の戸を「起きよ、起きよ」と叩いてまわります。神武天皇お舟出の際、町の人びとが「起きよ、起きよ」と声を掛けて回り、出発の準備をしたことがはじまりとされます。

お問合せ: 美々津まちなみセンター TEL: 0982-58-0661

🍷 お船出だんご

神武天皇お舟出の際、町の人びとがあわてて米の粉に煮小豆と塩をまぜ、蒸してつきいれた急ごしらえのだんごを献上した、という伝説にちなむ美々津の名物です。甘さひかえめで懐かしい味がします。



お問合せ: 美々津まちなみセンター
所在地: 日向市美々津町3331 TEL: 0982-58-0661
営業時間: 9:00~16:30 定休日: 月曜(祝日の場合は翌日)



🍷 立磐神社

耳川の河口にあり、航海安全・漁業繁栄の神様住吉三神を祀っています。神武東征時には、神武天皇が航海の安全を祈願したと伝わり、神武天皇が腰掛けたとされる「御腰掛岩」がご神体として祀られています。

所在地: 日向市美々津3419



🍷 湊柱神社

神武天皇お舟出の際、風を揚げて風向きを調べたという権現崎にあり、神社には神武天皇が清めの儀式を行ったとの伝説が残っています。

所在地: 日向市大字幸福5

周辺観光Info.

Information

お舟出の地の人びとのあたたかさにふれる



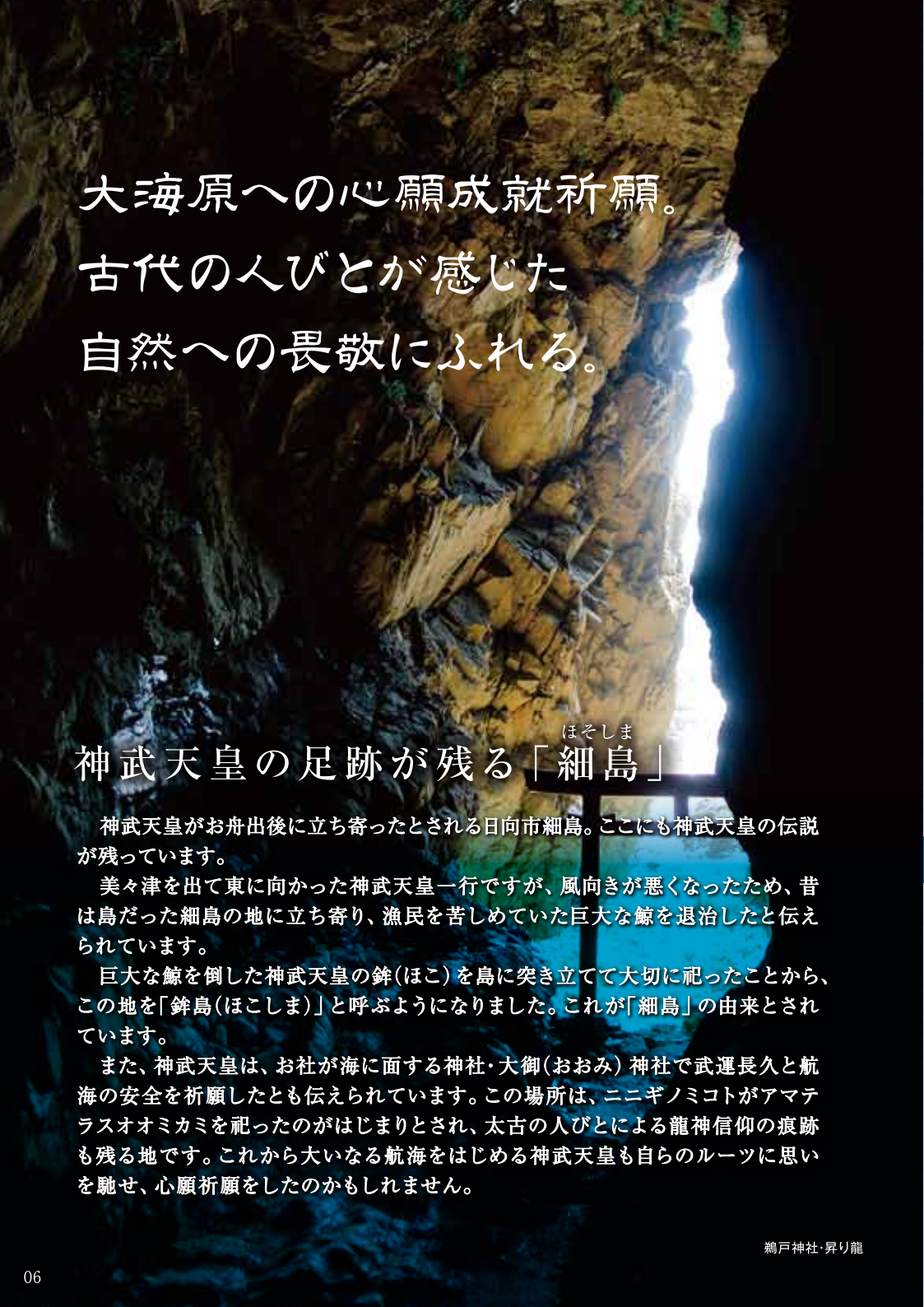
🍷 日向サンパーク温泉 お舟出の湯

眺望が自慢の日帰り温泉施設。太平洋を水平線まで見晴らしながら温泉を楽しむことができます。施設内のレストランでは、美々津で水揚げ・加工が盛んな「ちりめん」を使った料理も楽しめます。
所在地: 宮崎県日向市幸福303-5 TEL: 0982-56-3800
営業時間: 10:00~22:00(受付は~21:30)
定休日: 第1・3月曜(年に5日程度メンテナンスによる休業有り)

🍷 美々津軒

明治初期の商家「旧矢野家」を修復復元した公開用の伝統的建造物。昔の知恵が詰まった趣ある建物内を見学できるほか、名物館長さんによる美々津弁での楽しいおしゃべりも楽しめます。
所在地: 日向市美々津町3328 TEL: 0982-58-1229
開館時間: 9:00~16:30 休館日: 毎週月曜日、年末年始





大海原への心願成就祈願。
古代のくびとが感じた
自然への畏敬にふれる。

ほこしま
神武天皇の足跡が残る「細島」

神武天皇がお舟出後に立ち寄ったとされる日向市細島。ここにも神武天皇の伝説が残っています。

美々津を出て東に向かった神武天皇一行ですが、風向きが悪くなったため、昔は島だった細島の地に立ち寄り、漁民を苦しめていた巨大な鯨を退治したと伝えられています。

巨大な鯨を倒した神武天皇の銚(ほこ)を島に突き立てて大切に祀ったことから、この地を「銚島(ほこしま)」と呼ぶようになりました。これが「細島」の由来とされています。

また、神武天皇は、お社が海に面する神社・大御(おおみ)神社で武運長久と航海の安全を祈願したとも伝えられています。この場所は、ニニギノミコトがアマテラスオオミカミを祀ったのがはじまりとされ、太古のくびとによる龍神信仰の痕跡も残る地です。これから大いなる航海をはじめ神武天皇も自らのルーツに思いを馳せ、心願祈願をしたのかもしれない。

卍 大御神社

天孫ニギノミコトが地上に降臨した際、絶景の大海原を眺望し、先祖であるアマテラスオオミカミを祀って平安を祈念したことが始まりと伝わる神社です。神武天皇が、東征時に武運長久と航海安全を祈願したとも伝わり、今も多くの人々が心願成就祈願に訪れます。

所在地：日向市伊勢ヶ浜1 TEL:0982-52-3406



🍷 さざれ石(神座)・龍の霊

5000年前の人々の龍神信仰のあらわれとされる石(右)。脇にあるさざれ石(神座)は大きな龍がとぐろを巻いて卵を守っているように見えます。



さざれ石(神座)



龍の霊



卍 鉾島神社

細島の入り江を見渡す丘にあり、航海の神様として地元の人びとに親しまれています。末社の御鉾(みほこ)神社は、大鯨の来襲を恐れる漁師達が神武天皇の鉾を祀ったことが由来と伝えられています。

所在地：日向市細島353



卍 鵜戸神社

海沿いの洞窟にある神社で、大御神社境内から歩いて5分ほどのところにあります。奥まで進んで振り返ると、5000年前の人びとが龍神信仰のために掘ったとされる「昇り龍」を見ることができます。

お問合せ：大御神社

TEL: 0982-52-3406

周辺観光Info.

Information

港の人びとの暮らしにふれる



🍷 細島みなと祭り

古くは細島八坂神社の例大祭で、東西の太鼓台が激しくぶつかり合い勝敗を競う日向市夏の風物詩です。

開催場所：日向市細島商業港周辺 開催日：毎年7月下旬
お問合せ：細島みなと祭り実行委員会 TEL:0982-52-2601

🍷 細島みなと資料館

明治時代から現在に続く細島の港文化を伝える資料館。大正10年に建築された現在では珍しい木造3階建てで、かつて旅館として利用されていた当時の様子を今に伝えています。

所在地：日向市大字細島803-1 TEL:0982-55-0329

開館時間：9:00~16:30(毎週月曜日、年末年始休館)



神武天皇の軌跡を追ったら 次は太平洋を望む絶景へ。

どこまでも、どこまでも続く空と海の青。
長い時間をかけて形成されてきた山肌の不思議な形。
海と大地が交わる場所に広がる大自然は、
人智を超えて脈々と続いてきた
地球の歴史を教えてください。

うまがせ 馬ヶ背

日向随一の絶景ポイントとして知られる馬ヶ背。太平洋を望む日向岬の先端に位置し、岬全体の形が馬の背に似ていることから名付けられました。自然が作り出した彫刻・柱状節理の断崖絶壁と水平線までずっと続く空と海とのコントラストから、地球の歴史を肌で感じることができます。

所在地:日向市細島
お問合せ:馬ヶ背観光案内所 TEL:0982-54-6177



願いが叶うクルスの海

展望台から見下ろすと、断崖が南北200メートルにわたって割け、まるで地球が刻んだ十文字のよう。クルスとは、ポルトガル語で十文字を意味し、水平線側の岩場と合わせて見ると「叶」という文字に見えることから、ここで願い事をすると叶う、と伝えられています。

所在地:日向市細島
お問合せ:馬ヶ背観光案内所 TEL:0982-54-6177 日向市観光協会 TEL:0982-55-0235



米の山

神武天皇の先鋒、アマクシツオオクメノミコト(天櫛津大久米命)の名に因むと伝えられています。頂上の展望台から東側を見れば雄大な日向灘が広がり、西側を見れば日向市内が一望できます。夜景スポットとしても人気の高い場所です。

所在地:日向市日知屋686-159
お問合せ:日向市観光協会 TEL:0982-55-0235

周辺観光Info.

Information

絶景のあとは土地の恵みを味わう



海の駅ほそしま

すぐそばの細島港で水揚げされた旬の魚や郷土料理を提供。黒潮の恵みを受けた鮮魚が食べられる「海鮮丼」や、強火であぶったカツオにご飯をませ、焼きおにぎり風に仕上げた名物「こなます」などが人気です。

所在地:日向市細島769-4 TEL:0982-52-0771
営業時間:レストラン11:00~15:00 物産館10:00~17:00
(毎週月曜日定休 ※祝日の場合は翌日)

馬ヶ背茶屋

馬ヶ背の入り口にある観光案内所。日向のお土産を数多く取りそろえているほか、日向特産の「へべす」を使ったソフトクリームなどが食べられます。

所在地:日向市細島1-1 TEL:0982-54-6177
営業時間:9:00~18:00(10/1~3/31:8:30~17:30)



神武天皇の歩みの記憶を
今に伝える地で
心願成就に向けた第一歩を。

神武天皇の歩みの物語を伝える 「都農町」

神武天皇が東征の途中で立ち寄ったとされる都農町。自然豊かなこの町にも神武天皇の物語が受け継がれています。

尾鈴(おすず)山中にある、落差73メートルの雄大な滝「矢研(やとぎ)の滝」。東征の途中で神武天皇が鏃(やじり)を兵士達に研がせた場所と伝わります。下流へと進む水の流れは清く力強く、神武天皇が天下太平を願い大和へと東征の歩みを進めた物語と重なります。

神武天皇が国土平安・海上平穏・武運長久を祈願し、祭神を祀った場所とされる「都農神社」。御祭神はオオナムチノミコト、別名をオオクニヌシノミコトといいます。オオナムチノミコトは、ニニギノミコトが地上に降り立つ前に地上の世界の国造りを行ったとされる国つ神で、神武天皇はこれから国を治めていこうとする自分にオオナムチノミコトを重ねたのかもしれませんが。

神武天皇の歩みに寄り添って、心願成就に向けた一歩を踏み出す旅をはじめましょう。

都農神社

平安時代の『延喜式』には既に登場し、日向一之宮と呼ばれる由緒ある神社。神武天皇が航海の安全や武運長久を祈願した地と伝わります。出雲神話に登場する神々を祀っていることから、境内には「なでウサギ」や本殿のねずみの彫刻など出雲神話に登場する動物たちがいます。

所在地：都農町川北13294
TEL：0983-25-3256



矢研の滝

東征の途中で神武天皇が立ち寄り兵士に鏝を研ぐよう命じたことが名前の由来と伝わります。日本の滝100選にも選ばれたその姿はダイナミックで、見る者を引きつけてやみません。

所在地：都農町川北
お問合せ：都農町観光協会
TEL：0983-25-5712



天の岩舟

矢研の滝から200メートルほど登った谷川の中にある大きな舟形の岩。ニギハヤヒノミコトが天下った際の岩舟と伝わります。ニギハヤヒノミコトは、記紀で神武天皇の東征の際に協力してくれる神様です。

お問合せ：都農町観光協会
TEL：0983-25-5712

周辺観光Info.

Information

人びとに受け継がれた神話を感じる




都農神社 夏の太鼓祭

神功皇后(じんぐうこうごう)の伝説に由来する「浜下り神事」や、柳の枝に花飾をつけた町内各地区の太鼓台4台(総重量約1トン)が「チョーサイン、ソラヤレ」のかけ声とともに町内を練り歩き、威勢のいい太鼓の音が響きわたる御神輿の神幸など、地元で最も愛されるお祭りです。

開催場所：日向国一之宮都農神社
開催日：8月1日・2日
お問合せ：都農町観光協会
TEL：0983-25-5712





神武天皇の歩みに思いを馳せたら、 次は自然の恵みを堪能。

手つかずの自然が残る尾鈴山。山中に響く滝のせせらぎは、まるで騒がしい日常を洗い流してくれるかのように爽やかな気持ちにさせてくれます。

また、大自然が育んだ食も都農の自慢。新鮮な野菜や地ワイン、地元の港で獲れた鮮魚に舌鼓を打てば、山からも海からも力をもらい、明日に向かって進むことができる気がしてきます。

尾鈴山・ 尾鈴山瀑布群

都農町と木城町にまたがる標高1405.2mの山で、日本200名山の1つにも選ばれています。また、山中にかかる大小30を超える滝は、名勝指定された最初の瀑布群です。季節によって彩りを変える木々やさまざまな滝の個性に触れることができるため、トレッキングコースとしても人気です。

所在地: 都農町川北
お問合せ: 都農町観光協会 TEL: 0983-25-5712



白滝

都農ワイナリー

先人たちが苦勞の上で完成させた都農のぶどう。そのぶどう100%で造られるワインは、国内外で高い評価を受けており、その深い味わいに魅了される人も多数。ワイナリーからは、都農町と太平洋が一望でき、緑の芝生と青い空、広がる水平線の絶景には自慢の赤ワインがよく映えます。

所在地: 都農町川北14609-20 TEL: 0983-25-5501



道の駅「つ」

都農神社に隣接しており、物産館「門前市場」には、都農町内で収穫された新鮮な野菜や特産品がたくさん並んでいます。食事スペースもあり、都農の港でとれた新鮮な魚や野菜など、旬の食材を使った料理やスイーツが楽しめます。

所在地: 都農町川北5129
TEL: 0983-25-5055



周辺観光Info.

Information

都農の自然・人びとの営みを体感する



尾鈴キャンプ場

尾鈴山に抱かれた、大自然を満喫できるキャンプ場。休憩室・シャワー室・炊事場・多目的トイレなどを完備した「尾鈴憩いの森林館」のほか、バンガロー、山小屋などがあり、宿泊もできます。

予約・問合せ: 都農町観光協会
TEL: 0983-25-5712

おりがみ陶芸

「陶芸紙」と呼ばれる和紙と粘土を重ねたものを折って造形し、鶴などを焼成する焼きもので、2010年に発生した口蹄疫からの復興を願いました。都農神社で祈願された陶芸紙を使って自分だけの願掛けアイテムを作ることができます。

体験場所: 都農ビジターセンター(都農ワイナリー敷地内)
所要時間: 30分~1時間程度(焼成するため、完成までに2週間程度要)
体験料金: 1500円~(送料別途)
申込み先: 都農町観光協会(要予約) TEL: 0983-25-5712



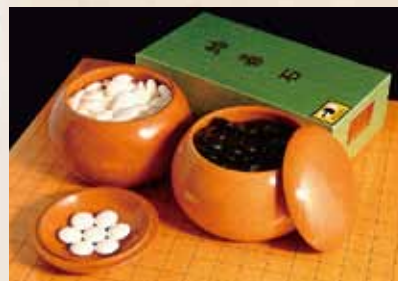
日向・都農の特産品

豊かな自然とそこに息づく文



平兵衛酢(へべす)

独特の香り・風味を持つ日向市特産の柑橘類。皮が薄く種が少ないのが特徴で、地元では焼き魚にかけたり、焼酎に少し入れて風味を楽しんだり。お土産品としてドレッシングやポン酢などが人気です。



牧水そば

日向市出身の歌人、若山牧水にちなんだ十割そば。田舎そば独特の太麺、ぶつりとした食感が魅力です。牧水の功績をたたえる「若山牧水記念館」がある日向市東郷町の牧水公園内で提供されています。



はまぐり碁石・はまぐり料理

日向の海で獲れるはまぐりは、貝の分厚さやきめ細やかさに特徴があり、古くから白碁石の加工技術が発達してきました。また、刺身・吸い物・焼蛤・蛤めしなどはまぐりを使った料理も楽しめます。

化が育んだ逸品たち——。神話の旅と一緒にいかがですか？



ぶどう

サニールージュ・シャインマスカット他、様々な種類が生産されており、その甘さは絶品です。7月上旬から9月下旬にかけてぶどう狩りも体験できます。



トマト/ミニトマト

地元の農家が栽培方法にとことんこだわって実らせる自慢のトマト。そのままはもちろん、お土産品として加工されるものや「黄金のジュース」としてななつ星In九州で提供されるものも。冬には「トマト鍋」など幅広いアレンジができます。



都農ふぐ井

都農の名産、金色のシロサバフグを使った都農ふぐ井。地元で食べ継がれてきた調理方法をどんぶり用にアレンジし、お好みのタレをかけます。皮がはいったふぐ汁、季節の副菜などがセットになっていて、手頃な値段で食べられるのも魅力です。

都農ワイン

都農町産ぶどう100%でつくられる地ワイン。ぶどう栽培には適さないとされてきた宮崎の地で、「独自の農法」で土づくりからこだわり、世界100選のワインが誕生しました。広がるフルーティな香りからは、太陽の恵みいっぱいのだ都農の風土が感じられるよう。



日向・都農MAP



至延岡南 IC

馬ヶ背茶屋 (P.9)
馬ヶ背 (P.9)
願いが叶うクルスの海 (P.9)

日向コース

日向灘

日向市

都農コース

都農町

東九州自動車道

至美郷町
道の駅てんし
至美郷町

尾鈴県立公園

尾鈴山瀑布群 (P.13)
矢研の滝 (P.11)

銚島神社 (P.7)
海の駅ほそしま (P.9)
細島みなと資料館 (P.7)
米の山 (P.9)
細島港
温見川
鵜戸神社 (P.7)
大御神社 (P.7)
お倉ヶ浜運動公園

日向市
財光寺
日向IC
南日向

道の駅日向
日向サンパーク温泉
お舟出の湯 (P.5)
美々津港
耳川
湊柱神社 (P.5)
美々津のまち並み (P.5)
立磐神社 (P.5)

都農ワイナリー (P.13)
藤見公園
都農神社 (P.11)
都農中道の駅「つ」 (P.13)
都農町役場
都農

都農IC
山本小学校
川南町

至高鍋 IC

至宮崎

川南



おすすめ観光ルート

日向・都農の魅力がたっぷり味わえる
とっておきのスポット満載ルート

神武天皇が都農を經由し美々津から舟出した伝説に思いを馳せながら、神武天皇ゆかりの地をはじめ、尾鈴山や日向灘の雄大な自然など多彩な観光スポットを巡ろう！

日向コース

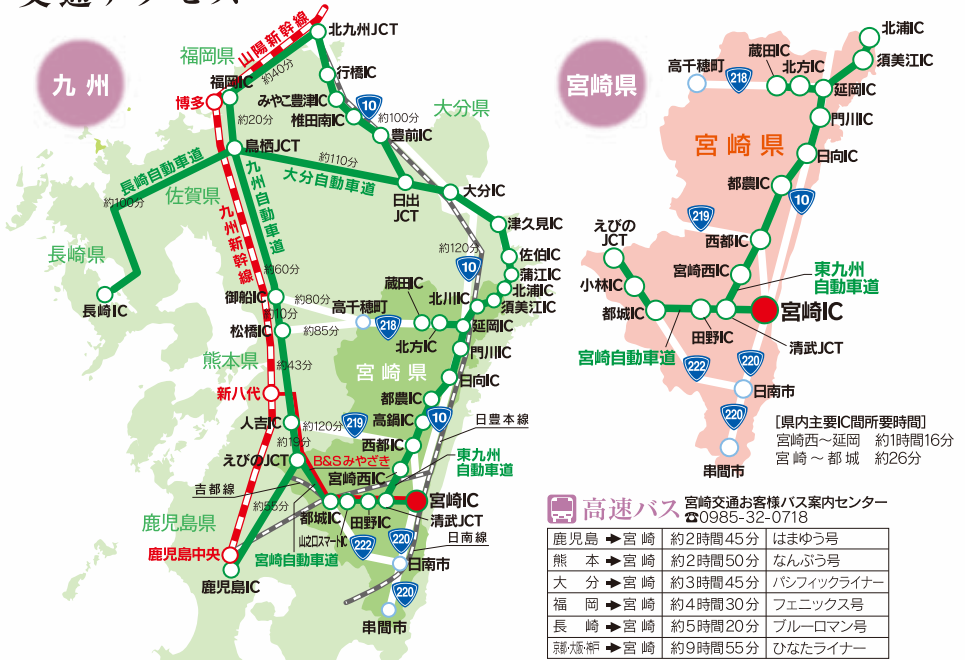


都農コース



交通アクセス

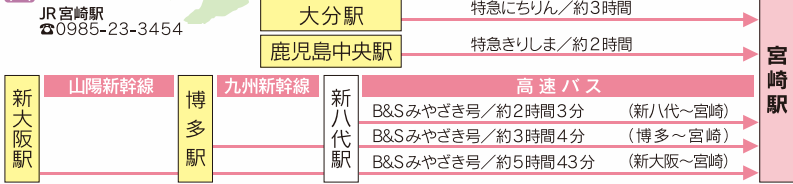
※2017年2月現在の情報です



高速バス 宮崎交通お客様バス案内センター ☎0985-32-0718

鹿兒島 → 宮崎	約2時間45分	はまゆう号
熊本 → 宮崎	約2時間50分	なんぷう号
大分 → 宮崎	約3時間45分	パシフィックライナー
福岡 → 宮崎	約4時間30分	フェニックス号
長崎 → 宮崎	約5時間20分	ブルーロマン号
鹿児島 → 宮崎	約9時間55分	ひなたライナー

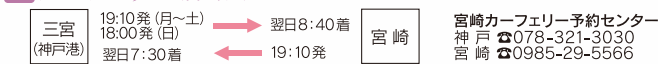
新幹線・JR特急



空路 (宮崎空港)

東京 → 宮崎	約90分	ANA, JAL, ソラシドエア	全日空 (ANA)	IBEXエアラインズ
名古屋 (中部) → 宮崎	約75分	ANA	国内線 ☎0570-029-222	☎0120-686-009
大阪 (関西) → 宮崎	約65分	Peach	日本航空 (JAL)	アジアナ航空
大阪 (伊丹) → 宮崎	約60分	ANA, JAL	☎0570-025-071	☎0570-082-555
福岡 → 宮崎	約45分	ANA, JAL, IBEX	ソラシドエア	チャイナエアライン
沖縄 → 宮崎	約80分	ソラシドエア	☎0570-037-283	☎0985-64-9811
ソウル (仁川) → 宮崎	約100分	アジアナ航空	Peach	香港航空
台北 (桃園) → 宮崎	約120分	チャイナエアライン	☎0570-064-731	☎098-987-0622
香港 → 宮崎	約180分	香港航空		

カーフェリー (宮崎港)



宮崎県商工観光労働部観光経済交流局観光推進課
記紀編さん記念事業推進室

〒880-8501 宮崎市橘通東2丁目10番1号 電話:0985-26-7099 FAX:0985-26-7327